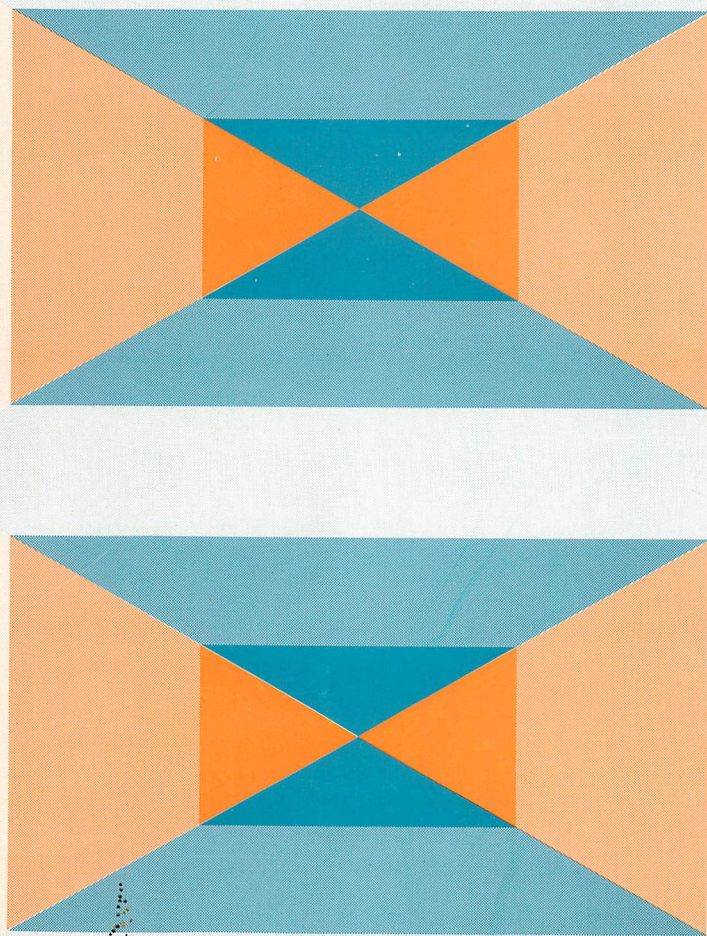


美術年報

1989



徳島県美術家協会

は　じ　め　に

最近「衰亡」に関する書物がやたらに多く出版されている。おそらく人間の経済発展があまりに急速で、アフリカ等一部に飢餓に悩む地域があるにしても、先進国では食べるもの、着るもの、住まい、交通機関その他人間生活に必要なもの、欲しいと思うものは何でも直ちに有り余るほど入手が出来る。健康さえもある程度自由に手に入れるようになっている。そんな時人間は、すべてのものがあまりうまくゆきすぎる。このまま進めばポッカリ穴に落ち込むのではなからうか、という不安がフト脳裡をよぎることがある。現代人のそんな不安感が興亡、衰亡という意識に結びつくのではなからうか。「盛者必衰」という抹香臭い言い方を借りなくても人間は常に衰退滅亡という不安につきまといわれていることは否定出来ない。そして事実人間は肉体的に生理的に滅亡してゆくものである。しかし、暗い洞窟の中で線刻された動物の絵が何千年も、何万年も、今日のピカソの時代まで存在しつづけて来たことも事実である。その間いかほど多くの人々が美術品の制作に精根を傾けて来たことであろうか。それらの美術品は天災や人災で失われたものの外は人類の遺産として生きつづけている。滅亡と不滅の間の橋渡しをするのは皆さん美術家である。次第に住みにくくなる世の中を少しでも住みよくするのは皆さん方である。

1988年11月12日から23日まで、第43回徳島県展が開催された。日本画、洋画、写真、彫塑、美術工芸、デザイン、書道の各部門にわたり1,055点の作品が展示されて県民の目を楽しませてくれた。出品数2,300点、入選約40%という事で年により多少の変動はあるが毎年ほぼ同じくらいの出品、入選である。審査された先生方の総評は「徳島の作品群は十分な手ごたえがある」と将来に期待をされながら「基本を押さえないで造型的な美しさだけを求めている」とも言われている。勿論、先生方と年期が違うから基本までは、なかなか手のとどかない点もあろうが頂門の一針として心に懸けるべきでなからうか。県展とは別に数多くの展覧会が開かれていたことは、今後の徳島の美術界に大きな期待を寄せることが出来よう。

平成元年2月

県美術家協会長 砂 川 健 治

徳島県美術家協会規約

昭和23.9.12	規約制定
32.7.14	新規約制定
33.4.29	規約一部改正
42.4.23	〃
46.4.29	〃
47.5.29	〃
49.8.22	〃
52.7.23	〃
56.5.5	〃
58.6.5	〃
61.6.21	〃

第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし、県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に關係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫塑
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ)展覧会 (ロ)講習会 (ハ)講演会
(ニ)観光美術の振興 (ホ)その他必要な事業

第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

- 会 長 副会長(2名)
理 事(若干名) 監 事(2名)

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から4名以内推せんする。役員は任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、31名以上の部にあっては、さら

に10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

- 部会長・委員(部会員数の3割以内)
部監事(2名)

役員は部総会で選出する。役員は任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり1,500円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,000円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館(現在の県立図書館)内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッヂを選定(図案は鬼塚副会長)

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事(3名~4名)によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部(日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・書道)のうえに商業美術(58年度からデザインに改称)が加わり7部組織となる。

和和62年度 事業報告

- (1) 総 会
 - 昭和62年 6月28日
 - 県郷土文化会館 第7会議室
 - 昭和61年度事業報告及び決算報告
 - 監査報告・承認
 - 役員改選
 - 昭和62年度事業計画及び予算審議
 - その他
- (2) 理 事 会
 - 昭和62年 6月19日 昭和62年度総会開催など
- (3) 第42回県美術展
 - 第1期 昭和62年11月13日(金)～17日(火)
書道の465点展示
 - 第2期 昭和62年11月19日(木)～23日(月)
日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・デザインの546点展示
 - 第42回展受賞者表彰式
昭和62年11月14日(土) 県郷土文化会館 5F小ホール
- (4) 第29回博美展(県博物館共催)
 - 第1期 62.5.13～17 写真・デザイン
 - 第2期 62.5.20～24 日本画・書道
 - 第3期 62.5.27～5.31 洋画・彫塑・工芸
- (5) 県美術講習会(県教委共催)
 - 昭和62年 8月16日 徳島市中央公民館
 - 講 師
 - 理事 河 崎 良 行 氏
 - ” 濱 口 恵 氏
 - ” 鎌 田 邦 宏 氏
 - 内 容 モデルを使った人物デッサンの実技講習
- (6) 美術年報の発行
 - 昭和63年 3月
 - 県展記録・各部門の歩み・会員名簿など
- (7) 各部委員会・その他
 - 日 本 画 (63.1.15)
 - 洋 画 (62.4.10, 9.11, 12.26, 63.2.6)
 - 写 真 (62.4.26, 10.4)
 - 彫 塑
 - 美術工芸 (62.10.3)

- 書道 (62.5.31, 8.7)
- デザイン (62.9.11)
- 第42回県展運営委員会 (62.6.27, 9.22, 12.12, 63.2.27)
- 第42回県展事務局会議 (62.7.25)
- 県芸術祭移動県展
 - 井川会場 (62.11.27~29)
 - 牟岐会場 (62.12.4~12.6)
 - 海部会場 (62.12.11~12.13)

(8) 各種後授

- 書道研究所書作展 (62.4.3~4.5)
- 第45回書芸院書展 (62.4.9~4.12)
- 第3回チャリティー田中双鶴書作展 (62.5.1~5.6)
- 荒井天鶴個展 (62.5.7~5.10)
- 24回成蹊書道会展 (62.5.3~5.5)
- 第5回中央絵画クラブ展 (62.5.8~5.11)
- 第11回全美展 (62.5.22~5.25)
- 県美協書道部選抜展 (62.5.29~5.31)
- 第46回世代美術展 (62.6.19~6.22)
- 四国女子大学書道教員作品展 (62.6.19~6.20)
- 第10回写真同人「炎」作品展 (62.6.26~6.28)
- 第2回正鋒会書作展 (62.7.10~7.12)
- 第43回新作日本画展 (62.7.10~7.12)
- 17人展 (62.8.6~8.9)
- 清水3世代個展 (62.8.20~8.25)
- 第16回徳島雪心会書作展 (62.9.3~9.6)
- 第46回書芸院展 (62.9.12~9.15)
- 第17回直心会書展 (62.9.18~9.20)
- 第13回克展 (62.9.18~9.20)
- 第63回徳島県女流美術家展 (62.9.19~9.23)
- 仲三千人書作展 (62.10.3~10.5)
- 第42回青美展 (62.10.9~10.12)
- 第22回清潮会書作展 (62.10.23~10.25)
- 第17回東玄書道会展 (62.10.30~11.1)
- 第25回成蹊書道会小品展 (62.11.6~11.8)
- 第3回春彩会日本画展 (61.11.6~11.8)
- 第9回美術文化協会四国支部徳島展 (62.11.13~11.16)
- 第2回藍住町美術展 (62.11.28~12.2)
- 彫塑部会展 (62.12.10~12.13)

- 第3回矢野秋溪個展 (62.12.15~12.18)
- 第16回歳末チャリティー色紙・作品即売展 (62.12.18~12.20)
- JAGDA展+徳島グラフィックデザイン展 (63.1.6~1.12)
- 第17回四国女子大学書道クラブ学外展 (63.2.5~2.7)
- 第14回桂鳴書道展 (63.2.5~2.7)
- 四国女子大文学部書道コース卒業制作展 (63.2.19~2.21)
- 県文化賞受賞記念吹田文明版画展 (63.3.10~3.15)
- 書道研究所書作展 (63.3.11~3.13)
- 第17回ナルトびんぼけクラブ写真展 (63.3.19~3.21)

徳島県美術展開催運営要項

第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展（県展）と称し広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより 県内美術愛好家の製作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

第2条 (主催団体)

本展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

第3条 (開催運営の組織)

本展を開催運営するため、基本事項を審議決定する「県展運営委員会」と主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の各部会から2名、県教委文化課から2名、徳島新聞社4名の合計20名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 県展の開催運営の基本事項について審議決定する。
- 2 審査員候補の推せん。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認。
- 5 その他

〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各部会から2名、県教委文化課1名、徳島新聞社2名の計17名でこれを構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備。
- 3 審査員の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇などに関する準備、手配。
- 4 収支予算案の作成。
- 5 開会式、表彰式の準備。
- 6 広報PRに関すること。
- 7 その他下準備に関すること。

第4条 (出品部門)

県展の出品部門は日本画、洋画、写真、彫塑、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から

- 1 一般公募作品のうち主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品(入選作品)及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。
その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。
- 2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

- (1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞のないときは失格)

◇次のものを無鑑査とする。

- (1) 特選を連続3回得たもの。
- (2) 年間を問わず特選を4回得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選の受賞のないときは失格)
- (3) 年回を問わず特選又は準特選を6回得たもの。(ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞のないときは失格、特選1回と準特選5回、特選2回と準特選4回、特選3回と準特選3回、準特選6回の場合とする)
- (4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

- (1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。
(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。
② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。
③ 40回展までの準特選は2回をもって特選と同値とする。

第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会の各部会から一定数の人数を推せんし、この中から事務局で選任作業を行い県展運営委員会の議を経て決定する。

第7条 (審査)

審査は公開により行う。

第8条 (入選、入賞数)

- 1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する可能性があるが、原則として次の範囲内に止める。

部 門 \ 区 分	特 選	準特選	特 別 賞	入 選
日 本 画	2	3	四 国 放 送 社 長 賞	若 干 名
洋 画	3	5	徳 島 県 美 術 家 協 会 長 賞	〃
写 真	4	8	徳 島 県 知 事 賞	〃
彫 塑	1	2	徳 島 県 議 会 議 長 賞	〃
美 術 工 芸	2	3	徳 島 県 教 育 長 賞	〃
書 道	4	13	徳 島 市 長 賞	〃
デ ザ イ ン	2	3	徳 島 新 聞 社 長 賞	〃

※特別賞は各部門とも特選の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。賞はいずれも同格で毎年部門により1つずつ順位を変更し賞を贈ります。

2 入賞は1人1賞とする。

第9条 (表 彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金5万円
- 2 準特選……賞状、賞金2万円
- 3 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 四国放送社長賞 1名
- 2 徳島県美術家協会会長賞 1名
- 3 徳島県知事賞 1名
- 4 徳島県議会議長賞 1名
- 5 徳島県教育長賞 1名
- 6 徳島市長賞 1名
- 7 徳島新聞社長賞 1名

※特別賞の選考方法については別にこれを定める。

第10条 (収支予算)

本展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ代金及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

本展の支出経費は事務局長の承認を経て行い必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2

月に開く運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第11条 (出品料)

県展の出品料は次の通りとする。

- (イ) 美術家協会員は1点2000円、2点目から1000円とする。
- (ロ) 招待、無鑑査、特別出品者は1点2000円とする。
- (ハ) 一般の方は1点3000円、2点目から1000円とする。

第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

一般・大学生	前売り	400円	当日	500円
高校生	前売り	200円	当日	300円
小中生	前売り	100円	当日	200円

第13条 (附 則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は県展運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

第43回展の記録

会期 (第1期) 63.11.12~11.16
 (第2期) 63.11.18~11.23
 会場 県郷土文化会館

日 本 画

〔審査員〕	山岸 純			
〔特別出品〕	高岡 何有			
〔招待〕	村上 凌雪	長尾 弘子	荻野 行夫	橋本 正弘
	田淵 冬湖	中川 健	矢野 秋溪	
〔賛助出品〕	篠原 三叢	森 蔦苑	高田 瑞雪	釣島 冬樹
〔無鑑査〕	岡 英彦			
〔特選〕	土井 洋子 (特別賞)		土方るみ子	
〔準特選〕	金子 綾子	北島 節子	日浦 猛史	
〔入選〕	小笠原豊雄	吉崎 進	江上 豊	土肥 弘江
	今出 時子	高田 愛子	反田 卓	香山 清子
	林 幸子	長尾恵津子	市原智美子	斉藤 久代
	藤原 満代	泉 修一	岩瀬 洋子	近藤日出子
	木内 トシ	三好 澄子	増田 澄子	美馬 郁子
	秋元よし子	前川 信江	佐々木文子	福田佳代子
	中西 芳雄	北川 和博	松野 寛枝	中川 敬
	吉坂美智子	中本 貞代	志賀佳代子	鶴 悦子
	原郷由美子	柳田 一子	西野 和男	市岡 美紀
	森内 明子	上田 美穂	日開 直美	

洋 画

〔審査員〕	利根山光人			
〔特別出品〕	長井 公雄	佐野比呂志		
〔招待〕	永山 隆二	清水 函典	秦 文雄	中川 隆史
	川原 康孝	楠瀬 等	高橋 敬	立岩 巖
	露口 敏幸	服部 裕	長尾 弘久	
〔賛助出品〕	浅田 二郎	天野 節	今田 史男	大神 良代
	岡 多実子	柏木 雅雄	河田 安市	黒崎 志郎
	後藤田仁一	武市善次郎	多田 青叙	板東 俊一
	榊田 務	松川 寛		

〔無鑑査〕	吉永 房子	岡本 征二		
〔特選〕	郡 恭子 (特別賞)		尾崎 隆幸	下内 裕次
〔準特選〕	福本 武子	島川 君子	野々村 馨	吉岡 啓子
	橋本 絹子			
〔入選〕	正木ツル子	坂東 公恵	桑原 健	武市 雅博
	大宮 和雄	鈴木 明雄	原田チエ子	団 泰子
	島村 英之	小山 志保	水間 利生	林 伸也
	南城ミツ子	伊藤 三恵	長尾 亜紀	北 美智子
	中本 貞代	斉藤 良子	安西 京子	桐本 悦子
	毛利 谷子	藤本 晴子	田淵 浜子	岩佐 博久
	白石 謙二	佐藤 敬子	藤田 倫子	真野 孝彦
	島上 二郎	金岡 義和	大石久美子	山口美千代
	松永 茂樹	増田 幸子	岡田 信一	古林 信子
	尾崎 孝幸	林 信夫	峯 幸子	福島 正二
	三谷多美子	友行 英樹	小島 真弓	服部 恵美
	伊勢 浩章	吉岡 謙二	藤原 康夫	志摩 政照
	乾 繁春	湯岑エミ子	山下 浩平	福良 哲子
	桐島 豊子	松本 孝子	三好 初子	都築 秀子
	玉田 秀子	井沢 忠昭	岸本 花子	河野 英昭
	小島 忠好	河野 洋子	青木 幸子	前野 亮治
	田所 米子	尾崎 幸代	西川 周三	騎馬 政美
	桑原 純子	加島 由季	嵯峨 潤三	金原 和美
	藤岡ひとみ	西川 敬子	辻野 正広	賀木 道子
	三谷ミヤ子	戸出 清貴	中山 幸子	美馬 悦子
	藤居 文子	林 由紀	北島 溢美	大西 文代
	杉本 英子	霜田 精奏	川人 健司	長尾 久子
	松原 慶典	野村 雅子		

写 真

〔審査員〕	三木 淳			
〔特別出品〕	福島 正仁			
〔招待〕	増田 清次	井上 光雄	木田 英之	西條 征二
	勝西 雅夫	藤井 梵	武内 亨	笹田 敏雄
	櫛淵 魏	酒井 博司	三好 和義	上野 照文

〔無鑑査〕	荒井 賢治	安長 剛	森 賢一	橋本 圭祐
〔特 選〕	井藤 光章 (特別賞)		古井 謙吉	高藤 敬堯
	樽見 義			
〔準特選〕	森川 浩司	増田 寿	武知 正昭	大津 勝治
	武知 良和	中辻 末光	村沢 義清	前浦 芳久
〔入 選〕	古井謙吉(4)	納田 康雄	新居見萬幸	関口 務(3)
	櫛渕紳哉(2)	高田為一(2)	前浦正広(6)	佐治 利弘
	牛尾 頼成	田中富子(2)	須見 信男	秋田召旨(2)
	笠井孝純(2)	折野 理悦	宮本 哲雄	谷 秀男
	井上 翔(3)	坂田 稔氏	佐治 孝(3)	井藤光章(6)
	さとう元雪	粟田一輝(2)	多留見敏男	佐野辰夫(3)
	楢山吉五郎	森川 浩司	宮崎 行弘	増田 寿(4)
	杉本 福(2)	高藤敬堯(3)	前坂祥文(3)	梅本貞範(3)
	大和健司(5)	武知正昭(7)	土橋 成行	平野 史子
	国見良幸(2)	大津勝治(2)	山口元彦(3)	武知良知(2)
	大林 義治	吉岡 聖司	稲井 芳男	福田 源吉
	田村泰弘(2)	藤原 和夫	坂東鶴雄(3)	長浜 好勝
	林 久雄	坂東 進(3)	岡田 晃一	竹原 章子
	林 敏彦(2)	和田俊彦(2)	石田 政悦	樽見 義(3)
	宮城 高士	川口 進	橋本 周二	京野 義明
	久保英樹(3)	竹西壮一郎	鈴木憲作(5)	中村敏雄(2)
	長谷 昌男	原田 武二	米田 賀子	清水定七(2)
	中川賢二(2)	橋 信二郎	板東泰雄(3)	柳本 正(2)
	遠藤 武	野藤 敏美	松本 芳雄	篠原 文彦
	菅蔵 数久	山下 勝正	岩朝十寸夫	堀口幸男(3)
	河田 清	大野 武(5)	富永仁一(3)	中川雅寛(2)
	勢喜 雅章	生田 秀男	前浦芳久(3)	尾崎利男(4)
	福井 道枝	船越 正文	森住 啓(4)	笹本 靖夫
	島田 昌彦	斉藤久勝(2)	堀渕完治(2)	多田晴美(2)
	斉藤 剛	岩崎 英昭	久米健雄(2)	椎野 正彦
	中野健吉(8)	松井 正明		

彫 塑

〔審査員〕	橋本 省		
〔招待〕	河崎 良行	佐藤 隆	大津 文昭
	井下 俊作	鎌田 邦宏	濱口 恵
		松永 勉	
〔特選〕	居上 真人 (特別賞)		
〔準特選〕	丸岡 美香	柳沢 悦子	
〔入選〕	阿部 裕司	沢井 良昭	杉本 真澄
	水口 知己		中山 直之

美術工芸

〔審査員〕	山下 恒雄		
〔招待〕	新居 猛	高橋 勇	森 昌男
	七條猪三郎	多智花佐代子	森 浩
			松下 慶一
〔賛助出品〕	村上 正典		
〔無鑑査〕	橋 恵		
〔特選〕	長澤悦子 (特別賞)		森 明治
〔準特選〕	森 賢一	西 浩子	井後 宏
〔入選〕	多田津テル子	中筋千代子	佐藤 勝子
	平井 恵子	喜田 久子	大西 義浩
	福山 光子	伊豫 義之	撫養ミツエ
	篠原 紀子	森 行雄	藤本善太郎
	森野 久子	後藤田喜一	島田 吉子
	森 里子	井村アイ子	加地真紀恵
	徳川 道泰	堤 公代	野田美代子(2)
	小栗加代子	三井 八郎	山本 和子
	青木 房江	太田 裕子	松山 豊
	福本 真弓	春本三次郎	藤田 武志
	藤田久美子	浜川美笑子	岡崎 益子
	斎藤 和彦	長谷川宇佐美	上村宣道(2)
	福本アヤ子	福島 隆資	平尾規代美
	鄭 明蘭	丹下 裕史	仁尾郁代(2)
			鴨川美佐子
			清澄 和也
			池北 久子
			山口 博子
			堺 都美子
			森岡 安一
			犬伏 絢
			綱木 麻雄
			森 悦光
			平岡美奈子
			吉田 敏明
			虎尾芽出子

書 道

〔審査員〕	大岡 皓崖	山田 伍雲	西野 象山	
〔特別出品〕	荒井 天鶴	田中 双鶴	田中 栢翠	
〔招待〕	西岡 楚峰	久保 幽香	新居 藍州	讃岐 泰泉
	仲 三千人	宮井 青雨	長原 臯鵬	高原 清泉
	西 南龍	成尾 荘秀	渡辺 草石	長江 清幽
	原田 霄月	三木田 栖鶴	芝原 醒鶴	前川 古舟
	清水 桂月	美馬 幾美賀	春藤 大耿	岸 潮風
	中谷 史子	長谷 美峰	勝瀬 景流	川上 虹泉
	三間 好鷲	近藤 静苑	上田 溪水	日下 溪翠
	竹田 和代	岡島 順子	荒井 彭仙	山口 華城
〔無鑑査〕	佐藤 真堂	富久 鳴泉	藤若 美風	永松 春苑
	田中 秀翠			
〔特選〕	王城 乾香 (特別賞)		能仁佳仔子	広島 章子
	大坂 昌代			
〔準特選〕	島田 秀子	伊丹 通公	武市 紘生	隅田 英二
	祢木真佐子	中尾 勝子	横田比呂美	井上 彰夫
	神野いずみ	高岡 清	坂本まゆみ	数藤 幸子
	南本 文子			

★ 漢字の部

〔入選〕	岩佐 弘子	神原 芙佐子	野村 淳平	山ノ井 文昭
	速川 孝恵	大下 富江	大平 京子	富士 あい子
	坂東 清子	吉本 和代	黒田 美穂	森 茂生
	原口 栄子	山本 きよみ	福永 久美子	江川 栄子
	大植 靖博	京野 美鈴	細川 美佳	久保田 みき
	尾方 由香	表原 輝美	田村 実	割石 浩子
	奈木 邦夫	吉成 真由美	佐渡 佳子	吉田 益義
	小井田 真紀	川村 真澄	池内 直子	寺内 金子
	廣井 由美	福家 佳奈	豊浦 佳子	成清 梢
	田村 栄子	高田 由里子	伊勢 嘉代	吉岡 愛子
	永岡 ツタエ	鈴木 エリ子	菱崎 信義	近藤 幸祐
	馬居 美智恵	南 勝雄	富士 照子	高原 智世
	富永 泰寿子	北島 佳美	田上 洋子	小井田 境子

近藤満寿美	酒井やすえ	高松 輝子	黒田ツルエ
板東 睦子	駒田 澄子	小西貴美子	八木 澄江
海原 進	河野多美子	以西 寛敬	黒田 早苗
山本 数馬	長江 達造	宇山 安俊	南 知枝
吉田美乃里	松浦 幸子	高井 初子	赤松 茂幸
鎌田 博之	木村 英一	川村 兵一	宇田 長未
宇野 太平	笠井 宣江	秦 照子	宮田久美子
藤本 貴子	扶川 治子	山城美三子	山地 靖子
岡田佐禰子	中野 真希	西田 佳代	宮越 俊二
吉成啓一郎	西岡 詩朗	中川 富量	宇山 和治
河野 憲二	高田 孝子	青木 博美	奥野 信夫
笠原 小松	熊代 厚子	曾川 由明	武田 知子
鳩成 広美	坂東 英司	坂東 武	福井 民代
藤川 智子	藤村 恭子	横田 典子	上野喜久子
阿部 千明	西木かおり	大杉 洋子	坂本 真人
古川 恵己	新居 邦夫	山尾 素文	小林 義治
鈴木 正友	森 澄子	新田 久代	相原 美香
横山 弘美	田村富士子	真鍋 一美	宇山 峯子
安田ひろ子	近藤 鶴代	笹田 茂子	有井 清
山本 芳夫	浅川 陽子	椎野 博	

★ 仮名の部

〔入 選〕	徳山 正光	宮森 とみ	横井三知代	佐川 公子
	磐崎 恭子	河野紀代子	中一多喜子	森 弥生
	村島とみ江	倉本 節子	吉岡 実	根津不美子
	高島 正雄	松本志津子	西浦 智頼	尾田 艶子
	檜原 孝子	近藤マサエ	大野 照子	増田 愛子
	武市 勝恵	大塚 文子	河野 静江	藤原 育代
	頼野よし子	岡田 妙子	斎田 寿子	須藤 和子
	中野 春江	中西 甫子	西尾与志子	井内久美子
	松下 恵子	吉崎ミサ子	下村 清子	岸田いち子
	宮田久美子	由利 里子	田丸 香織	笠井 宣江
	阿瀬川寛司	江本 良江	相城 禮子	矢野 一代
	中村三和子	高島美恵子	永田 良美	阿部 豊彦
	福島 由子	亀石 二三	水口 尚子	清村 宗子

古郷 弘江	阿部 千秋	久次米公代	梯 葉子
藤川 満里	光井 明美	小井田境子	笹田 真里
川原 一恵	古郷 恵美	近藤 美香	廣井 由美
富士 明美	池内 直子	大橋亜希代	音竹 理美
岩橋佐登美	岩元 玲	内田 桃子	大島 仁美
川窪 敦子	小竹 尚子	高田 美穂	角田 孝美
溝淵久美子	宮武 松美	三好 正恵	森本 博子
天野 愛	中山 智子	薄田喜代子	近藤まち子
岩崎 敬子	坂野 雅子	稲井 国雄	山中 真紀
戎 幸子	国見美恵子	坂東万里子	藤本 真弓
三津 栄子	炭谷 嘉子	三宅 葉子	佐藤 一美
瀬藤 豊子	清水 嘉子	阿部 博子	坂口貴美子
吉成真由美	大塚 俊美	横山 美子	尾原 常子
山本 恵子	坂田美智子	吉田美重子	播磨 恭子
吉田 良枝	福田世津子	井内 滋子	富士山市子
住友 優子	田中 久恵	伊東 重子	中筋 滋子
兼任 幸子	関根 史子	森本 益江	山口マサ子
天野 矩子	西川 勝子	別役千代子	田村 文子
柴田 良	和泉かず子	枝川 照子	玉田 浩子
村口 透	笠原小夜子	大松 静子	福井 民代
大松 洋子	宮城 明子	水口 久枝	武田 詩夜
赤川久美子	平田 節子	益田 昌子	米本 政子
遠藤 由子	井上 まり	竹内 英子	大西 順子
小河 静佳	大野香代子	炭谷 恵子	谷岡美代子
田上貴美子	三ツ井澄子	福良美代子	稲井真由美
菖蒲 和代	近藤夫佐子	大東 静代	東 弥生
田村富士子	上田 久恵		

★ 近代詩文の部

(入 選)	久米 安弥	佐原 武子	長江 裕子	岩本 雅三
	木元ユリエ	坂尾 俊一	正木 民江	川端喜美子
	森本知世子	斉藤 房子	清重 和雄	田村 久子
	川下小夜子	柴田 公代	武田 吉子	柴田 明
	児玉 幸子	谷本 清子	竹井 澄子	松木 和代
	内藤ますみ	山崎ひとみ	森口 典子	鳥井佐知子

東條香津代	高瀬 善郎	竹内さい子	野村 正勝
河野 富子	小野 幸久	坂東 幸男	松本 栄次
尾崎 恵美	沢村 清美	出原とし子	幸田 康代
栗田 千恵	米本 孝枝	西 朝子	斉藤 元子
林 栄美	川又 敏香	和田 悦代	加島 俊彦
楨本 理	藤本ひさ子	大石 正	春名 完二
箭田 忠則	吉積 幸子	大西 英子	柳井 恒夫
笠井 鎮子	中山 均	庄野 悦子	三木猪太郎
高力 浩子	中島 和子	川下千枝美	多田 房子
豊田 米子	春川 登	青柳ひでの	浜 佳子
竹田 照子	折田 浩子	和田富美子	横谷千代美
山口 文子	富川 博之	木田 史子	天野 啓子
平岡 郁子	横堀 恵子	大崎 辰雄	森岡 禎子
板東タマエ	藪内扶左子	篠原 和枝	佐藤 正江
高橋美知江	上野 豊吉	丸岡 良子	山下 美穂
富永美知子	高橋 順子	武市三奈子	多田タケミ
近藤 美香	浜口 敏子	福永 培子	藤井フサエ
近藤 照子	丸田 三恵	岸 緑	松家 祥

★ 前衛の部

〔入 選〕	久保 安義	竹内 政美	山田 幸司	中川 健
	小藤 勝己	馬場 康雄	坂本 光廣	木藤 裕余
	楨喜多好廣	吉岡 昌純	竹内 康晴	森 美代子
	西川 由美	新居 幸子	芝 憲彦	伊丹 明美
	榊富 年子	佐々木 愛	田中 一夫	岡山真知子
	新居 勲	豊茂 安江	前田 律子	白川奈美子
	萱原 弘子	一宮美代子	宮本 仁	小浜 勝美
	林 浩一	中川 博雅	中川 富量	山下 敏幸
	長井 由江	曾我部多重子		

デザイン

〔審査員〕 佐藤 晃一
 〔特別出品〕 坂本三千一
 〔招待〕 浅野 昌哉

〔特 選〕

〔準特選〕

〔入 選〕

浅野 敦司 (特別賞)
 斉藤 繁次 溝田 治朗
 井上 理恵 兼若 敬子
 長尾 芝之 長尾 亜紀
 三宅 真弓 井原 彰子
 寺川 則子 梶 良子
 阿部 浩二 住友 優子
 天羽 恵子 伊藤 司郎
 池本 満寛 露花 佳子
 斉藤 剛 川真田隆子
 福井 明子 敷島のり子
 藤本真由美 増田 智子
 中村 誉 谷口 香
 吉本 實 吉本たみこ
 宮本 靖

坂野美恵子
 重清 嘉宏
 西山 欣子 斉藤志津子
 出野 武 笠井 浩幸
 田村由布子 溝田 治朗
 米倉 誠 福家 治
 西岡 千晴 樽井 佐栄
 原田 美紀 藪本 秀子
 深見満寿美 西 真一
 木川 隆志 米田 一恵
 長井 秀子 岩朝由希子
 鈴江 芳美 鈴江 仁
 鎌田 直子 寺本 礼子
 近藤 駿男 芦尾 節子

徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	(野 間 仁 根 家 永 三 郎)	委 員	
2	大 栗 旌 斤	野 間 仁 根	上 田 備 山	(大 田 三 郎 坂 東 文 夫)
3	委 員	伊 原 宇三郎	同 上	(大 田 三 郎 坂 鹿 内 文 夫)
4	委 員	須 田 国太郎	同 上	同 上
5	上 村 松 纂	田 村 孝之助	小 野 由 行	(大 田 三 郎 坂 東 文 夫)
6	西 山 英 雄	伊 藤 継 郎	川 崎 龜太郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤太郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	(大 田 三 郎 坂 東 文 夫)
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	(鈴 木 信太郎 野 間 仁 根)	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長三郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令太郎	同 上	(辻 東 晋 堂 坂 東 文 夫)
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	菅 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘治郎	同 上	安 田 周三郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初太郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ユキ子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿岐羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂

展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書	デザイン
鬼塚 信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭 山 南 木・織 田 子 青	
同 上	手 島 右 卿	
同 上	同 上	
同 上	小 坂 奇 石	
明 石 朴 景	辻 本 史 邑	
会 田 裕 宣	織 田 子 青 (漢) ・ 出 口 草 露 (仮)	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒 井 天 鶴 ・ 後 藤 泰 秀 ・ 後 藤 田 香 石 田 中 双 鶴 ・ 田 中 柏 翠 ・ 富 永 永 眉 峰	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
明 石 朴 景	同 上	
平 松 宏 明	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内 田 邦 夫	同 上	
山 脇 洋 二	同 上	

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
23	松岡政信	山下大五郎	岩宮武二	井上武吉
24	山崎忠明	大沢昌助	棚橋紫水	菊池一雄
25	奥村厚一	齊藤真成	同 上	原 武典
26	梶 喜一	島村三七雄	同 上	掛井五郎
27	上原 卓	高田 誠	伊藤知己	松村外次郎
28	黒光茂樹	中間冊夫	岩宮武二	小島広志
29	松岡政信	島田章三	同 上	保田春彦
30	黒光茂樹	田中 岑	同 上	篠崎明雄
31	河合健二	田中忠雄	同 上	江口 週
32	長谷川青澄	山口長男	(岩宮武二 伊藤知己)	一色邦彦
33	松岡政信	吉井 忠	(岩宮武二 秋山庄太郎)	柳原義達
34	山岸 純	小西保文	岩宮武二	清水九兵衛
35	樋笠数慶	荻 太郎	同 上	桜井祐一
36	坂口麻沙子	吉井淳二	同 上	土谷 武
37	下田義寛	野見山暁治	同 上	山本正道
38	同 上	須田 寿	高田誠三	清水九兵衛
39	同 上	齊藤真一	同 上	城田孝一郎
40	下保 昭	津高和一	(岩宮武二 高田誠三)	清水良治
41	橋田二郎	小松崎邦雄	奈良原一高	淀井敏夫
42	松本哲男	国領經郎	岩宮武二	木津一夫
43	山岸 純	利根山光人	三木 淳	橋本 省

美術工芸	書	道	デザイン
槻尾宗一	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 井中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		
山脇洋二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 井中栢翠・富永眉峰		
藤本能道	同上		
三井安蘇夫	同上		金野弘
六角穎雄	同上		大智浩
鈴木貫爾	同上		早川良雄
田村耕一	同上		原弘
山脇洋二	同上		田中一光
浅野陽	同上		奥野英雄
前田泰次	同上		灘本唯人
山脇洋二	同上		大高猛
中村光哉	荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰・新居藍州		福田繁雄
山脇洋二	同上		永井一正
田村耕一	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰 西岡楚峰		山城隆一
同上	同上		粟津潔
山下恒雄	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		田中一光
同上	同上		長友啓典
浅野陽	荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・春藤大耿 高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽 新居藍州・西岡楚峰		亀倉雄策
中村光哉	明石春浦・坪井正庵		伊蔵憲治
浅野陽	桜井琴風・黒野清宇		サイトウ・マコト
山下恒雄	大岡皓崖・山田伍雲・西野象山		佐藤晃一

第43回県美術展出品・入選等状況

部 門		日本画	洋 画	写 真	彫 塑	美術工芸	書 道	デザイン	計
区 分									
出 品 数		73	252	814	46	110	908	90	2,293
人 数		69	187	158	41	80	637	81	1,253
入 選	率	60.3%	38.9%	26.7%	58.7%	56.4%	48.0%	60.0%	40.9%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特 選	2	3	4	1	2	4	2	18
	準特選	3	5	8	2	3	13	3	37
	入 選	39	90	205	24	57	418	49	882
	計	44	98	217	27	62	435	54	937
落 選	率	39.7%	61.1%	73.3%	41.3%	43.6%	52.0%	40.0%	59.1%
	落 選	29	154	597	19	48	472	36	1,356
招 待 等	招 待	7	11	12	7	8	32	1	78
	無鑑査	1	2	4	0	1	5	0	13
	特 別 品	1	2	1	0	0	3	1	8
	賛 出 品	4	14	0	0	1	0	0	19
	計	13	29	17	7	10	40	2	118
展 示 数		57	127	234	34	72	475	56	1,055

各部記録

日 本 画 部

部 会 長 荻 野 行 夫

年 間 展 望

◎ 第29回 博美展（第3期6/1～6/5 県博物館）

今回は現在の博物館での 展覧会は最後の開催となった。そのこともあって作品のレベルも非常に高かった。

大賞の柳田一子の「半夏生の頃」は、するどい描写力と統一された色感がよく、構図においても確さが認められた。博美賞「清明」岩瀬洋子は、現次元を超えた彼女独特の心象表現の努力を買った。優秀賞「叢」鶴悦子は、ややもすれば見過ごす野の草花をよく観察し直曲線をうまく構成し、野生の生命感を写した愛情のあふれた作品であった。他に賞候補に入りながら残念だった作品で、井原順子「揺」は色感もよく努力作ながら、人物デッサンにやや難があって惜しかった。また高田愛子の「夕映え」は、ほのぼのとした空間処理に好感がもてた。福田佳代子、吉坂美智子、金子綾子の作品もそれぞれ持ち味がありながらも、賞に点数制限があって残念であった。（公募点数29点 入選24点）

長い年月、春の県展の性格のあるこの博美展の存続を祈りたい。

◎ 第44回 新作日本画展（7/8～7/10 県郷土文化会館）

出品点数69点、前回より16点の減少を見たが、作品内容では急速にレベルの向上が現れて来ていて出品者個々の常日頃の努力が、この新作展で大きな成果として示された。

例によって優秀作品14点を選び会場で表彰を行った。

一般の部……（新作大賞）「ひまわり」香山清子

（新 作 賞）「無心」岩佐美那子、「白秋」橋本祐子、「少女」三好澄子

（佳 作）「鉄線花」福田佳代子、「冬越の白菜」宮井美代子、「エンドウ豆」明石興子

水墨の部……（新作大賞）「響」角田紅谿

（新 作 賞）「山峡の秋」浜口芳春、「伐採の跡」増田澄子、「翠滝」高部恒香

（佳 作）「自然」林紫園、「祖春」後藤房子、「浄城」木村彩雲

◎ 第43回 県美術展（第2期11/18～11/23 県郷土文化会館）

今回は日展評議員の山岸純先生に 審査をお願いした。公募点数は昨年とほぼ同じで73点が審査対象となった。

審査の総評ではまず素直な 心情をぶっつけて描いていて 意欲的な作品が多く熱気が感じられ地方の県展での徳島の作品群は十分な手ごたえがあったと言われた。

物を見て感動する心を持つこと、その感動を生き生きとした 作品にまとめ上げる心掛けが大切なことなど強調され好評をいただいた。

入賞作品の評では特選の土井洋子「花降る」は、緻密な描写力が素晴らしく、安定した表

現力を持っている。フジの花と建物という異質なものを一つの構図に巧みにまとめている。人物の表現もうまく、どことなく季節感を感じさせてくれる。

特選の土方るみ子「無花果」は、イチジクの持っている生命感を見事に描いている。少し荒っぽいところもあるが、全体のリズムでうまく処理している。欲を言えば、写生の密度をもう少しよくしてほしい。

以下準特選、日浦猛史「ふたり」は、若々しい感性を表出している。強い夏の日差しと二人の人物を巧みに描いている。欲を言えば、もっとデッサンの修業をしてほしい。

金子綾子「家路」は、どこにでもありそうな光景をうまく切り取り、純真な雰囲気を手に出している。道路や夕焼けを巧みに描き、語りかけるものを持っている。

北島節子「庭先」は、土くさい生活感をうまく表現している。するどい観察眼を持っているようでタマネギの描写がよく効いている。(公募点数73点 賞5点 入選39点)

<会員消息>

今年度における会員の皆さんの各方面にわたる制作作品を次にご紹介します。

1月	日本画洋画新春展	四電鳴門ギャラリー	高田瑞雪・釣島冬樹
2月	日本画墨彩画院展	香川文化会館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿・矢野秋溪・高田瑞雪・津田津保三・増田三澄
〃	第12回色紙小品展	徳島シビックセンター	篠原三叢・森蔦苑・高田瑞雪
3月	第28回日本南画院展	東京・京都・大阪美術館	森蔦苑・長谷寿・篠原三叢
〃	丈六寺絵画奉納展	丈六寺	高田瑞雪・森蔦苑・長谷寿・矢野秋溪
〃	県老連県展	郷土文化会館	矢野秋溪
4月	阿南市美術展	阿南市民会館	森蔦苑・長谷寿・篠原三叢・津田津保三・増田三澄
〃	小松島市美術展	小松島市中央会館	篠原三叢
〃	平和美術展	郷土文化会館	津田津保三
5月	京展	京都市美術館	岡 英彦 入選
〃	村上凌雪墨翠展	丸新デパート文化ホール	村上凌雪
〃	春の文化展	鳴門市市民会館	鳴門市日本画部全会員参加
〃	第18回溪生社水墨画展	郷土文化会館	横田谿秀・江上豊溪ほか
7月	第65回県女流美術家展	郷土文化会館	長尾弘子・木内トシ・土井洋子・土方喜美子・森内明子
〃	釣島冬樹素描展	鳴門N T Tギャラリー	釣島冬樹
8月	中央出品絵画展	郷土文化会館	森蔦苑・長谷寿・篠原三叢
〃	絵で見る徳島展	郷土文化会館	篠原三叢・森蔦苑・高田瑞雪・長谷寿・津田津保三・増田三澄
〃	阿波へんろ道		
〃	日本画洋画合同夏展	四電鳴門ギャラリー	高田瑞雪・釣島冬樹

9月	第66回県女流美術家展	郷土文化会館	長尾弘子「菖蒲咲く」(県芸術祭 優秀賞受賞) 木内トシ・土井洋子・土方喜美子 ・森内明子 高田瑞雪(サージマルジス賞受賞) 矢野秋溪
	〃 手描版画	日本美術出版社	
	〃 徳島アイランド祭典	郷土文化会館	
10月	第41回鳴門市展	鳴門市市民会館	鳴門市日本画部全会員参加
	〃 有秋会展	大阪市美術館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿
	〃 珀雲社日本画展	郷土文化会館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿・村上 凌雪
	〃 第3回国民文化祭 全国優秀絵画招待展	兵庫県公館	柳田一子「半夏生の頃」(博美展 大賞を推薦)
	〃 第17回仙台徳島交流女 流美術展	宮城県美術館	長尾弘子ほか4名
	〃 第3回国民文化祭 兵庫88全国公募展	兵庫県公館	鶴悦子「風そよぐ」入選
	〃 第2回小笠原白芳個展	郷土文化会館	小笠原白芳
	〃 釣島冬樹日本画展	四電鳴門ギャラリー	釣島冬樹
	〃 建治寺天井画制作展	郷土文化会館	森蔦苑・横田谿秀・村上凌雪・長 谷寿・篠原三叢
11月	第20回日展	東京都美術館	橋本正弘「牛屋」入選 岡英彦「フラミンゴ」入選
	〃 朱泥会展	四電サービスセンター	(賛助)高岡何有・長尾弘子 鶴悦子・吉坂美智子・秋元よし子
	〃 阿南市文化祭美術展	阿南市市民会館	森蔦苑・長谷寿・篠原三叢・津田 津保三・増田三澄
	〃 小松島市美術展	小松島市中央会館	篠原三叢
	〃 那賀川町文化祭	那賀川町民センター	篠原三叢
12月	第4回春彩会日本画展	郷土文化会館	中川健・吉崎進・齊藤誉・金子綾 子・日浦猛史・中西芳雄・三好秀 雄・前川富子・森見喜美・森内明 子
	〃 第19回溪生社水墨画展	郷土文化会館	横田谿秀・江上豊彦ほか
	〃 チャリティー展	四電鳴門ギャラリー	釣島冬樹ほか

洋 画 部

部会長 佐 野 比 呂 志

年 間 展 望

◎ 第29回 博美展 (5/18~22 県博物館)

出品点数は一人1点で78点、入選46点、展示点数は、審査員、委嘱を合わせて50点。

- 審査員 佐野比呂志、高橋敬、永山隆二
- 委 嘱 藤川明子
- 大 賞 原田チエ子「部屋の一隅」
- 博美賞 桑原純子「みなと」
- 優秀賞 島川君子「婦人」、真野孝彦「冬の漁港」、桐島豊子「早春」

春の県展として親しまれ、又新人作家の登竜門として期待をあつめてきた博美展が、第29回展をもって、博物館主催の開催は最後となった。次回から二か年休会することを申し合わせ、その後続いての開催は、従来の主催団体の宿題となる。県下のすべての作家、愛好家の期待にこたえて、博美展が二年後、新しい形で再開されることを祈念してやまない。

◎ 第43回 県美術展 (11/18~23 県郷土文化会館)

審査員は無所属の利根山光人画伯、日本美術家連盟常任理事、吉田五十八賞、日本芸術大賞、メキシコ最高文化勲章受賞者で、個性の強烈な作家として著名である。

審査総評 阿波踊りに見るような爆発的 エネルギーが作品になぜでないのか。全体的に意欲の面で問題がある。女性の作品にナイーブな感覚が伝わってくるいい作品もあった。又楽しみながら個性を発揮している作品には好感ももてた。更に若い学生たちが、既成の絵の作り方などの概念にとらわれず 新鮮な独自なものを出していたが、この傾向がもっと盛んになって今後の県展に新しい風を吹きこんでいくことを願うものである。

なお、楽しんで描いている素朴な心温まる作品に好感をもつといったが、素朴というのは芸術性の核ともなる。ところが、こうした作品はよく見おとされがちになる。今後展示スペースの充実などによって、これらの作品も生かされる方向にもって行ってほしい。

特選 (県美術家協会賞) 郡恭子「遊戯場」

技術的にはうまいとは言えないが、空間に広がりがあり、造形的に面白い。楽しくて何ともほほえましい。引き続いて何物にも拘束されないこうした 自由な作品を描いていてもらいたい。

尾崎隆幸「静物」は、材質をきまじめに精密な神経で描いている労作。特に材木がいい。大工さんと聞いたが、職業意識を深めつつ描いていけばもっと良くなるだろう。

下内裕次「アトリエA」はベテランの味、構図といい、まとめかたといい、大変手慣れた作品。身近のものを描いたのだろうが マチエールが凝っていて、構成的に組み立てられているのが良かった。

準特選は、島川君子「窓辺」、福本武子「おひなさんと」、野々村馨「美術教室C」、吉岡啓子「万華鏡」、橋本絹子「迷い」。

無鑑査出品は2名で、岡本征二「景」、吉永房子「残照」。

<会員・個人消息> ※美術年報名簿順 ◎新会員

- 天野 節 青美展（郷文）。
- 今田史男 美術文化展出品。美術文化徳島展（郷文）、サロン・ド・ルージュ展（阪神百貨展）、美術文化四国展（西条市民センター）、キッシング17人展（和光ギャラリー）、自在派展（東京・町田ビル）。
- 大神良代 自由美術展出品。県女流美術展（郷文）、県女流小品展（郷文）。
- 岡多実子 新象展・日ソ美術展（福岡等）出品。県女流小品展（郷文）、県女流美術展（郷文）、仙台徳島文化交流女流美術展（宮城県立美術館）。
- 岡田君代 青美展（郷文）、東光会徳島支部展（郷文）。
- 岡田 守 全美展（アミコ）、世代美術展（アミコ）、フェスティバル・ド・アート日本（パリ市・デ・コングレ）。
- 賀木道子 旺玄会展出品。7月会展（東京・ヤマト画廊）、旺玄会徳島支部展（和光ギャラリー）、旺玄会有志展（東京・ヤマト画廊）。
- 木谷 弘 世代美術展（アミコ）、17人展（和光ギャラリー）。
- 黒崎志郎 示現会展出品。
- ◎後藤ユリ子 新会員。博美展入選。鴨島美術グループ展（郷文）、青美展（郷文）。
- 後藤田仁一 美術文化展出品。美術文化徳島グループ展（郷文）、世代美術展（アミコ）自在派展（東京・町田ビル）、美術文化四国支部同人展（高知市公民館等）。
- 斎藤靖子 日本板画院展出品。日本板画院新人秀作展（KATOギャラリー）、17人展和光ギャラリー、絵で見る徳島展（郷文）。
- 笹川五月 平和美術展（郷文）、17人展（和光ギャラリー）、青美展（郷文）、八万文化展（徳島市コミュニティセンター）、那賀川美術グループ展（四電ギャラリー）。
- 四宮久子 二紀会展入選。
- 清水亟悞 モダンアート展出品、フランス国際美術展（第3位受賞）。第8回清水亟悞個展（丸新）。
- 鈴江栄治 フィナール国際美術展（東京・松坂屋）。第3回サロン・ド・フィナール展（目黒区美術館）。
- 鈴木勝次 第2回高松個展（高松市・セントラル田町ビル）、青美展（郷文）、第5回パーシット展（四電ギャラリー）。
- 高橋 敬 創造美術展出品。17人展（和光ギャラリー）。
- 多田青叙 水彩連盟展、一水会展、徳島市展招待。中央展出品絵画展（郷文）出品。
- 津地威汎 国展出品。試展（郷文）、ニューエリア熱き芸術家たち展（愛媛県立美術館）。
- 中川 正 関西水彩画展（大阪市立美術館）、形象派展（愛知県美術館）出品。

- 中村晴代 中央絵画クラブ展（アミコ）、全美展（アミコ）。
- 永山隆二 美術文化展、関西美術文化展、関西美術文化展、博美展（審査員）出品。世代美術展（アミコ）、17人展（和光ギャラリー）、美術文化徳島グループ展（郷文）、自在派展（東京・町田ビル）、美術文化四国支部展（高知・愛媛）。
- 南城ミツ子 東光会展、徳島市展 無鑑査。東光会 徳島支部展（郷文）、県教職員美術展（郷文）。
- 秦 文雄 世代美術展（アミコ）。
- 林 信夫 全美展（アミコ）、とくしま美術グループ展（アミコ）。
- 藤川明子 徳島市展招待、博美展委嘱。中央絵画クラブ展（アミコ）、全美展（アミコ）。
- 藤田倫子 博美展入選。赤いファンタジー個展（小松島市・やまなみ）。
- 峯 幸子 鳴教大院修了展（郷文）。
- 山口和子 徳島市展招待。中央絵画クラブ展（アミコ）、全美展（アミコ）。
- 佐藤敬子 博美展入選。青美展（会員努力賞）、鳴島美術グループ展（郷文）。
- 関 政明 日本の自然を描く展（上野の森美術館）。小松島市展（春）、小松島市展（秋）、自由工房展（小松島市・やまなみ）。
- 石原 弘 東光会展出品。
- 尾崎素子 東光会展出品。白鳳洋画グループ展（鳴門市立図書館）。
- 河野公子 青美展（郷文）、第3回個展（ベルモニーパレス）、第4回個展（UZU珈）、17人展（和光ギャラリー）、平和美術展（郷文）。
- ◎鈴木明雄 新会員。青美展（郷文）、土曜展（青少年センター）。
- 大宮和雄 土曜展（青少年センター）、青美展（郷文）。
- 中辻奈美枝 二紀会展、関西二紀展、徳島二紀展出品。試展（郷文）、県女流美術展（郷文）。
- 島村英之 示現会展出品。
- 住友義彦 羽ノ浦町文化祭（町体育館）。
- 武市善次郎 青美展（郷文）、平和美術展（郷文）、石井美術の会展（郷文）、個展・中国・九州の旅展（和光ギャラリー）。
- 立岩 巖 全展、関西全展。全美展（アミコ）、世代展（アミコ）17人展（和光ギャラリー）、県教職員美術展（郷文）、石井美術の会展（郷文）、石井町文化展。
- 富野 徳 旺玄会展出品。石井美術の会展（郷文）、青美展（郷文）、平和美術展（郷文）、17人展（和光ギャラリー）、旺玄会徳島支部展（和光ギャラリー）。
- 仁宇暁子 形象派展出品。石井美術の会展（郷文）、県女流美術展（郷文）、徳島形象派カルトン展（四電ギャラリー）、17人展（和光ギャラリー）、試展（郷文）。
- 松川 寛 モダンアート展出品。ニューエリア熱き芸術家たち展（愛媛県立美術館）、モダンアート徳島支部展（郷文）。
- 毛利谷子 東光会展（ミナト賞）。県女流小品展（郷文）、石井美術の会展（郷文）、東光会徳島支部展（郷文）、県女流美術展（郷文）。

- 板東俊一 大潮展出品。藍住町美術展（緑の広場）。
- 三好初子 東光社展出品。徳島市美術展（市議会議長賞）。県女流小品展（郷文）、仙台・徳島文化交流女流美術家展（郷文）、東光会徳島支部展（郷文）、藍住町美術展（緑の広場）。
- 岡本征二 試展（郷文）、青美展（郷文）、鴨島美術グループ展（郷文）、土曜展（青少年センター）。
- ◎志摩政照 新会員。
- 下時治郎秀臣 白日会展、白日会名古屋展出品。
- ◎松尾彰滋 新会員。白日会展出品。鴨島美術グループ展（郷文）。
- 真野孝彦 博美展（優秀賞）。青美展（郷文）、鴨島美術グループ展（郷文）、県秀作巡回展、個展・四国・徳島ふるさと展（東京銀座）・（徳島そごう）。
- ◎湯岑エミ子 新会員。博美展。鴨島美術グループ展（郷文）。
- 浅田二郎 東光会展出品。中央展出品絵画展（郷文）、東光会支部展（郷文）。
- ◎小笠正明 新会員。旺玄会展。青美展（郷文）、旺玄会徳島支部展（和光ギャラリー）。
- 河田安市 白日会展出品
- ◎島川君子 新会員。博美展（優秀賞）、東光会展入選。青美展（郷文）。
- 田所米子 博美展入選。青美展（郷文）、平和美術展（郷文）。
- ◎坂東公恵 新会員。
- ◎正木ツル子 新会員。
- 真鍋弘子 青美展（郷文）。
- 金岡義和 個展（四電ギャラリー）。
- 川原康孝 関西全展（兵庫県立アートギャラリー）出品。全美展（アミコ）、青美展（郷文）、土曜画会展（池小体育館）、三加茂町民絵画展（三加茂町歴史民俗資料館）、（三加茂町中央公民館）。
- 川原真琴 土曜画会展（池小体育館）、三加茂町民絵画展（三加茂町歴史民俗資料館）・（三加茂町中央公民館）、青美展（郷文）。
- 山口美千代 博美展入選。草の美会展（池田町ジャスコ）。
- 長井公雄 大阪府美術巡回展、秋季大阪美術展。

なお、会員の第43回県展出品状況については、省略しました。本誌上の県展記録を参照して下さい。

写 真 部

部 会 長 西 條 征 二

年 間 展 望

- ◎ 博美展（第2期5月25日～29日迄 博物館大ホール）

前回よりも応募数は若干少なく、内容的にもいささか低調な感がある。県内の代表的作家が多く出品されていたにもかかわらず、力作が少なかったのは残念である。

大賞「初夏」荒井賢二のモノクロ作品は、さわやかな陽光をムードあふれる表現で成功させていた。博美賞「黎明」カラー増田寿、優秀賞「大漁おどり」カラー楢山吉五郎、「朝の海辺」モノクロ佐治孝、「幻想」カラー三宅隆子、「雪どけ」カラー森貢がそれぞれに選ばれた。審査員西条征二、井上光雄、櫛淵魏。
- ◎ 第43回 徳島県美術展 第2期11月18日（金）～23日（水） 県郷土文化会館。

審査員は日本大学教授三木淳先生により厳選された粒ぞろいの県展になった。常にアイデア、努力、技術の3つを重点に見ている。全般的に内容の充実したものが多かったと思う。特にモノクロ作品の中に優れた作品が多かった。これは焼き込んでより映画的に表現する技術など、すべて評価した、といわれた。特選県知事賞の井藤光章「神域」はどこ神社でも見られる鳥居としめ縄、それに神木を最高の技術で映像化し一種不思議な雰囲気、霊気を漂わせ、二枚組にて表現している。特選高藤敬堯「ヒロイン」、は阿波踊りをテーマにした中でも内容がよかった。樽見義「勝負」は二人の力士が倒れた瞬間をキャッチした作品、厳しい一瞬の写真の世界、古井謙「光と風と影」カラーの三枚組にしたからそれが表現できた作品。
- ◎ 二科展（36回二科会写真部）

荒井賢二「陽のあたる路」久米健雄「帰り道」森賢一「ウツボ」田中富美子「池畔」森住博「阿波踊」板東敏晴「漁火」がそれぞれに入選した。
- ◎ 88関西カメラクラブ写真コンクール展
西日本のカメラクラブの対抗コンクールに212クラブが参加して行われた。
自由作品の部 銀賞 新浜写真クラブ
テーマ作品の部 銀賞 写真集団“渦”
- ◎ 第22回 徳島県芸術祭（写真部門）

個展及びカメラクラブ展が多数参加し盛大に行われた、次の各者が賞を得ました。

優秀賞 木村章個展「天狗久作人形頭写真展」（内匠頭）、優秀賞 林敏彦「写真集団“青”第二回写真展」（白い世界）、新人賞岡崎虎雄「写真集団“渦”写真展」（残暑）
- ◎ 主な写真展覧会は次のものが開催された。
 - 第18回 徳島県教職員美術展
1月20日（金）～1月22日（日）徳島県郷土文化会館

- 写真展「沖繩7人の旅」
2月19日（金）～2月22日（月）四国電力徳島電気相談センターギャラリー
- ナルトびんぼけクラブ写真展
3月19日（土）～21日（月）鳴門ショッピングセンタージャスコ4F特設会場
- 第17回 徳島市芸術祭文化展（美術部門）
3月18日（金）～3月23日（火）徳島県郷土文化会館
- 第6回 写真集団“風”作品展
4月15日（金）～17日（日）徳島駅前アミコシビックセンター
- 第8回 写団「未知草」作品展
5月13日（金）14日（土）15日（日）徳島駅前シビックセンター
- 第14回 小松島カメラクラブ写真展
5月21日（土）～22日（日）徳島県郷土文化会館
- 鳴門市春の文化展
5月27日（金）～29日（日）鳴門市市民会館
- 写真同人“炎”作品展（第11回）
6月10日（金）11日（土）12日（日）徳島駅前アミコシビックセンター
炎賞、荒井賢治「家」優秀賞、森賢一「Fish」、中川定典「払暁」、野藤敏美「午前2時の街」
- 第1回 新浜写真クラブ作品展 NOSAMIS展
7月1日（金）～3日（日）徳島駅前アミコシビックセンター
- 第11回 ひまじんくらぶ写真展“88”
7月22日（金）～7月24日（日）徳島県郷土文化会館
- 写真展「貌」
8月10日（水）～8月13日（土）四国電力徳島電気相談センターギャラリー
- 第23回 光展
8月26日（金）～29日（月）徳島県郷土文化会館
- 第28回 写楽会写真展
9月23日（金）～25日（日）徳島駅前シビックセンター
- 第2回 徳島花を写す会写真展
9月23日（金）～25日（日）徳島県郷土文化会館
- 第41回 鳴門市展
10月18～20日 鳴門市市民会館
- 明治、大正写真作家クラブ展
11月4、5、6日 徳島県郷土文化会館
- 写生集団“渦”作品展「阿波の夏」
11月18日（金）～29日（火）鳴門四国電力ギャラリー
- 日光会写真展（11回 ふるさとからの報告）「阿波の鳴門」

11月18日（金）～20日（日）徳島駅前シビックセンター

◦ 写生集団“青” 第2回写真展

12月4日（日）～7日（水）四国電力徳島電気相談センターギャラリー

彫 塑 部

部 会 長 河 崎 良 行

年 間 展 望

第43回県展は、本県出身の彫刻家、橋本省氏（行動美術協会会員）に来ていただいた。審査員が抽象作家なので、見ごたえのある抽象作品が何点か出品されることを期待したが、やはり例年のように具象作品がほとんどであった。

しかし、今回の内容は、全身像の出品が例年になく多く、全体的にはレベルの高いものとなった。作品のレベルが向上しても、審査規定により40%は落選としなければならないので、審査員は最後まで入・落の決定には悩んでおり、苦労されてる様子であった。

橋本省氏は「一般に彫刻は技とか手仕事と思われがちであるが、本来、各自の意志から情緒まで含めた頭の仕事である。」と再々指摘されていたが、それは品作の中には習作的なものかなり目立ったためであろうと思われる。真正面から取り組んでいるのはよいのだが、どちらかと言えば、表現技術にウエイトが置かれ、豊かな表現性といえるところまでいっていない作品が目につき、それらの作品についての助言指導であった。

42回展より、大きな作品は野外に展示できるように募集規定を変更し、彫塑部門の活路を見い出そうと期待したのであったが、今年も応募は1点だけで、新しい展開をみる事が出来なかった。せめて数点あれば、野外展示場として効果を上げれることが出来るのだが、残念であった。

しかし、野外展示の居上真人君の石彫「雅（みやび）」が高く評価され、特選と併せて県議会会長賞を受けた。今後、こうした野外用の力作が増えることを強く望みたいところである。

準特選の柳沢悦子さんの「たなばた」は、等身大の女性像で、完成度の高い作品であった。特に、細部を省略し、全身をバランスよく捉えての表現が評価された。この作品は、かなりの力量を感じさせる出来ばえで、今後の活躍が楽しみな作家である。

もう一つの準特選丸岡美香さんの「想い出」は、全身の組み立てがしっかりしており、高校生の作品とは思えないすばらしい出来のものであった。今後が期待できる新人である。

その他入選作品の中では、三木健司君の「女」がよかった。基礎的なものがしっかりしているので、今後はそれに表現性がプラスされれば一段と飛躍するものと思われる。また、小林正則君の「立つ」、森本美鶴さんの「若い人」などが力作で注目された。

部会の行事としては、8月28日、中央公民館において、63年度県美術講習会を引き受けてデッサンの実技講習会を開催した。講師としては、彫塑部会の理事3名（鎌田・濱口・河崎）が指導にあたった。

<個人消息>

鎌田 邦宏 二紀展出品・同人賞

東京都美術館

河崎 良行	二紀展出品 石の彫刻コンクール展入選	東京都美術館 香川県庵治町
濱口 恵	モダンアート展（版画）出品 関西モダンアート展（版画）出品	東京都美術館 大阪府立現代美術センター
蒔田 寿	二紀展入選	東京都美術館
松永 勉	行動展出品 石の彫刻コンクール展入選 第11回神戸須磨離宮公園現代彫刻展準入選 宮崎現代彫刻展出品 現代宝飾デザイン展・デザイン賞 徳島県彫刻コンクール優秀賞	“ 香川県庵治町 神戸市
居上 真人	第73回二科展入選	東京都美術館
井下 俊作	瀬戸大橋架橋記念野外彫刻展出品 第43回行動展出品・奨励賞 宮崎現代彫刻展出品 新町川水際公園シンボルモニュメント優秀賞	高松市 東京都美術館

美術工芸部

部会長 森 昌 男

年間展望

第43回県展は、東京芸術大学教授、日展評議員、現代工芸参事、日展審査員、現代工芸審査員の山下恒雄先生に審査をお願いした。

審査評としては、作品の水準は、38・39回の審査より全体的に数段高くなっている。特に陶芸は感覚的に優れた作品が多く、甲乙つけ難かった。染色、織物も描写力がうまくなっている。徳島の伝統工芸である藍染の着物が目立ったが、今後の課題として平面的な染色作品と見るのではなく、着物を染色のオブジェとしてとらえる芸術性を追求するとさらに向上する。

長沢悦子（螢川）はモチーフの螢火を作者ならではの個性のロマンチックに表現した着物、情景と制作技術が一体となり完成度も高い。

森 明治（白化粧線文つぼ）は形はだらかだが、きめの細かい美しい陶芸作品。情緒的なものではなく、熟練された技術力を評価したい更に釉薬の研究を重ねると良くなるだろう。

森 賢一の木工芸（作品）は木のもつ素材感をうまく生かした幾何学模様で図柄を構成した。ほかの素材にないストレートな強さがよく出ている。

西 浩子（陽映）は植物の華やかさを大胆な構図で表現した織物、モチーフをよく観察しておりそれを芸術として個性的に昇華させている。

井後 宏（花器）は、金属を美しく構成したスタンダードな作品だが、素材感をうまく生かしたシャープさや、はりをいきに表現していると選評をいただいた。

<個人消息>

新居 猛	10月武蔵野美術大学にて「私のデザイン（椅子）」を語る。		
森 昌男	中部染色作家協会展	6月	愛知県博物館
井後 宏	日本七宝作家協会展 特別賞受賞	9月	上野の森美術館
矢野 款一	日本工芸正会員展	5月	東京日本橋 三越
	第35回日本伝統工芸展	9月	東京日本橋 三越
	陶の会 焱	9月	徳島シビックセンター
	日本工芸会四国支部展	10月	高松 三越
平井 恵子	現代工芸美術展	3月	東京都美術館
	現代工芸美術展近畿展	4月	京都市美術館
	織染絲舎展	11月	東京都港区北青山 桃林堂
山本 和子	第74回光風会展	4月	東京都美術館
	山本和子染色展	7月	四国電力 電気相談センターギャラリー

四十宮年代	第13回日本手工芸美術全国展 総合佳作賞受賞	12月	東京都美術館
	日本手芸普及協会創作手芸展	5月	大丸東京店グランドホール
森 浩	第30回日本民芸公募展 労働大臣賞	10月	大阪府日本工芸館
	村上 正典 作陶30年村上正典陶芸展	5月	徳島そごう美術画廊
小栗加代子	第35回日府展	5月	東京都美術館
	第14回創作陶芸展 徳島陶芸展	11月	徳島シビックセンター
	J Q A Fキルトフェスティバル	4月	東京都吉祥寺 東急ギャラリー
	国際キルトセミナー	10月	東京都吉祥寺 東急イン
島田 吉子	第6回もめんの詩パッチワークキルト展	11月	徳島県郷土文化会館
	個展 島田吉子展	4月	U Z U珈ギャラリー 鳴門市北灘町
松山 豊	県老人展 優秀賞	3月	徳島県郷土文化会館
	県アマチャ展	7月	徳島シビックセンター
	徳島陶芸会	8月	〃
	鳴門市展	10月	鳴門市民会館
九十九健二	第一美術展	5月	東京 上野美術館
森 賢一	第26回現代工芸四国会三越展	1月	三越 高松店
	日本現代工芸美術展	3月	東京都美術館
	第20回日展	11月	東京都美術館
松下 慶一 多智花佐代子	日本工芸会四国支部展 三越高松展賞	11月	三越 高松店
	第27回日本現代工芸美術展	3月	東京都美術館
	現代工芸四国会展	1月	三越 高松店
	第27回日本現代工芸美術展香川巡回展	4月	香川文化会館
	第3回楽絲舎織展	11月	東京 桃林堂ギャラリー
影谷美代子	徳島県ハンドクラフト協会展	3月	徳島そごう
	徳島平和美術展	3月	徳島県郷土文化会館
	藍染五つの世界	6月	四国電力サービスセンター
西 浩子	第26回現代美術家協会四国会展	1月	三越 高松店
	第65回徳島県女流美術家小品展	7月	徳島県郷土文化会館

書 道 部

部 会 長 田 中 双 鶴

年 間 展 望

昭和63年中県内で開催された書道展は、県展・博美展を主軸に、県書展、芸術祭参加の各社中展・個展などが盛大に開かれて、何れもが趣向を練り、目標を掲げてその最善を尽くして、次第に質量共に充実してきており、又、中央展、県外展への進出とその活躍も目ざましいものがある。

更に海外進出の展覧会にも大きい足跡を残しており、本年の県書道界は、前向きで積極的な研究が計られ、着々とその成果を積み重ねていることは喜ぶべき現象である。

◎ 博美展（6/1～5）

（大 賞） 大松 華雪

（博美賞） 玉城 乾香

（優秀賞） 奈木 雪江、永松 春苑、広島 章子、大松 翠雨

◎ 県書展（6/1～5）

（大 賞） 佐藤 真堂

（準大賞） 藤若 美風、吉岡 景鷗

（特 選） 鳩成 広美、高畠 瑞峰、薄田 玲泉、隅田 英二、富永 竹香

沖田 唐谷、佐藤 宗香、山本 清香、横谷 清亭、吉田 素川

◎ 県 展（11/12～16）

審 査 員 大岡 皓崖、山田 伍雲、西野 象山

（特 選） 玉城 乾香（徳島市長賞）

能仁 華瑠、広島 章子、大坂 昌代

（準特選） 島田 小園、伊丹 東竜、武市 鳴雲、隅田 英二、柘木 香雲

中尾 勝子、横田比呂美、井上 彰夫、神野 和泉、高岡 晃祥

坂本 霄風、数藤 幸子、南本 文子

◎ 県芸術祭（9月～12月）

（優秀賞） 田村 昇鶴、玉城 乾香、松本志津子、佐藤 宗香、佐藤 真堂

薄田玲泉、中谷 史子

<個人消息>

1 中央展、県外展において審査員として活躍し、審査員作品を発表した人々

- 第11回 青潮書道会全国展（大阪市立美術館 1/10～12）

高原 清泉、西 南龍

- 第29回 太玄書展（東京都美術館 1/11～17）

田中 双鶴、春藤 大耿、田村 昇鶴

- 第41回書道芸術院展（東京都美術館 2 / 7～12）
西岡 楚峰
- 第24回創玄展（東京都美術館 3 / 5～13）
荒井 天鶴、久保 幽香
- 第10回日本書道学院展（東京産業貿易センター 4 / 1～4）
吉岡 景鷗、勝瀬 景流
- 第42回日本書芸院展（大阪市美術館 4 / 15～17）
上田 溪水、勝瀬 景流
- 第12回 由源全国展（大阪マイドーム大阪 5 / 14～16）
勝瀬 景流
- 第32回 東方書道展（東京都美術館 7 / 1～6）
上田 溪水
- 第40回 毎日書道展（東京都美術館 7 / 8～12）
荒井 天鶴
- 第51回 全日本ペン書道展（東京産業貿易センター 8 / 6～8）
勝瀬 景流
- 第40回 毎日四国代表作家展（愛媛美術館 8 / 16～21）
荒井 天鶴
- 第4回 産経書のアート展（東京朝日生命ギャラリー 10 / 15～20）
勝瀬 景流
- 第24回 日本硬筆書芸院（岡山玉野文化センター 10 / 14～16）
勝瀬 景流
- 第10回 東京書作展（東京セントラル美術館 11 / 29～12 / 14）
田中 双鶴

2 中央展、県外展に役員として作品を発表した人々

- 随鷗女流書展（東京中央美術画廊 1 / 5～11）
久保 幽香
- 書壇受賞に輝く作品展（東京セントラル美術館 1 / 5～10）
勝瀬 景流
- 毎日現代書巡回展（大阪、金沢、広島、愛媛 1 / 5～5 / 8）
久保 幽香
- 第29回 太玄書展（東京都美術館 1 / 11～17）
近藤 静苑、笹尾 芳石、清水 嘉子、中尾 勝子、中谷 史子
- 第16回 日本の書展招待選（東京上野の森美術館 2 / 5～11）
勝瀬 景流
- 第4回 最高賞作家ミニ作品展（東京日産アートサロン 2 / 18～23）
勝瀬 景流

- 第42回 日本書芸院展（大阪市立美術館 2 / 12~14）
山口 華城
- 第24回 創玄展（東京都美術館 3 / 7~12）
一科審（荒井 天鶴、三木田栖鶴）
二科審（成尾 莊秀）
学 審（岸 潮風、荒井 彭仙、芝原 醒鶴、中山 青葉、長原 阜鵬）
- 日本書道大賞受賞作家展（東京セントラル美術館 3 / 15~20）
勝瀬 景流
- 第11回 聖潤会書展（岡山森川美術 3 / 18~20）
勝瀬 景流
- 第21回 聖雲会展（岡山総合文化センター 3 / 22~27）
勝瀬 景流、吉岡 景鵬、薄田 玲泉
- 第10回 日本書道学院展（東京産業貿易センター 4 / 1~4）
薄田 玲泉、竹内 虹舟、柘木 香雲、赤川 景舟、倉本 景雨
- 毎日現代書四国代表作家展（坂出市民美術館 5 / 3~8）
岸 潮風、佐藤 宗香、芝原 醒鶴、竹田 香照、多田 清芳
中山 青葉、長原 阜鵬、成尾 莊秀、浜 佳香、三木田栖鶴
- 第11回 日本かな書展（東京日本橋高島屋 5 / 5~10）
讃岐 泰泉
- 第5回 現代俳句と書展（東京セントラル美術館 6 / 6~12）
久保 幽香、三木田栖鶴
- 第32回 東方書道展（東京都美術館 7 / 1~6）
上田 溪水
- 第40回 毎日展（東京都美術館 7 / 9~17）
荒井 天鶴、久保 幽香、三木田栖鶴、長原 阜鵬、岸 潮風
成尾 莊秀、芝原 醒鶴、荒井 彭仙、浜 佳香
- 第34回 全関西美術展（大阪市美術館 7 / 15~27）
上田 溪水
- 第40回 朝陽会書道展（岡山総合文化センター 8 / 2~7）
勝瀬 景流、吉岡景鵬、薄田 玲泉
- 第5回 読売書法展（東京都美術館 8 / 13~19）
勝瀬 景流、上田 溪水
- 第40回 毎日四国代表作家展（愛媛美術館 8 / 16~21）
荒井 天鶴、荒井 彭仙、永松 春苑、佐原 和清、久米 聰香
- 現代硬筆書芸展（広島、福山カルチャーセンター 10 / 8~10）
勝瀬 景流
- 千草会展（マイドームお前さか 11 / 19~20）
西岡 楚峰

3 中央展、県外展に入賞した人々

- 第11回 青潮書道会全国展（大阪市立美術館 1/10～12）
（日本教育書道研究会賞） 原口 栄香
（特 選） 大平 京蘭、大下 江波
- 第29回 太玄書展（東京都美術館 1/11～17）
＜会員の部＞
（特別賞） 竹田 和代
（奨励賞） 下村 清子、田中美智子
＜準会員（一部）＞
（推 選） 鈴木 恵理
（準推選） 大楠 一峰、大塚 秀峰、中野 芳泉、奈木 雪江
＜公募（二部）＞
（特 選） 中野ハルエ、岸田いち子、須藤和子
（準特選） 岡田 妙子、坂田美智子、頼野よし子、谷口 博子、古郷 恵美
山本 恵子、森 恵美、椎野 春翠、尾原 常子
- 書道芸術院展（東京都美術館 2/7～12）
笠原 三雨
- 第24回 創立展（東京都美術館 3/7～12）
＜一科秀逸＞
森岡 禎幽、浜 佳香、坂本 霄風、玉城 乾香
＜二科賞＞
岸 緑香、藤井夫佐江、高橋美知江
＜準二科賞＞
大野 秀峰、富永美知子、福永 培風、和田富美子、平尾 久代
丸岡 良子、近藤 照香、横堀 恵子、新開比登美、武市三奈子
- 第42回 日本書芸院展（大阪市美術館 4/15～17）
（特 別 賞） 隅田 英二
（特 選） 吉岡 景鷗、高田 青蓮
（一科推薦） 薄田 玲泉、河野 青玄、宇野 玉峰
（二科推薦） 以西 恒心、能仁 華瑤、有井 大惺、藤村 柳葉、青木 東原
- 第12回 由源全国展（マイドーム大阪 5/14～16）
（郵政大臣賞） 勝瀬 景流
- 第32回 東方書道展（東京都美術館 7/1～6）
（褒賞） 木村 濤石、有井 大惺
- 第40回 毎日書道展（東京都美術館 7/9～12）
（秀作） 佐藤 宗香、富川 博香、玉城 乾香
- 第5回 読売書法展（東京都美術館 8/13～19）
（秀逸） 吉岡 景鷗

- 第10回 東京書作展（東京セントラル美術館 11/29～12/4）

（東京新聞賞） 亀石 文苑

（優秀賞） 岡島 順子、笠井 宣江、久保 直子、小井田境子、小井田真紀

古郷 弘江、須藤 和子、冨永 竹香、中西 甫子、播磨 恭子

三津 栄紅、水口 尚子、山本 恵子、由利 里子

（奨励賞） 大西 由美、岡田 妙子、清村 宗子、坂田美智子、竹田 和代
福島 由佳

4 個 展

- 古稀記念 田中栢翠書展（シビックセンター5F 5/2～4）

- 第1回 玉城乾香書作展（県郷土文化会館 9/9～11）

- 日本伝統芸術展 浜佳香書展（パリー、ルバロワ 12/2～1/1）

5 海 外 展

- 毎日現代書法芸術上海展（上海市美術会館 5/2～16）

久保 幽香

- 現代日本の書ヨーロッパ展（ミュンヘン、バイエルン州立図書館 9/12～26）

久保 幽香

- 現代日本の書ヨーロッパ展（ウィーン、民族学博物館 10/12～26）

久保 幽香

- 雪心会書法展（中国、杭州浙江省博物館 11/6～11）

新居 藍州、山口 華城、佐藤 真堂、隅田 英二

- 現代日本の書ヨーロッパ展（オッペンバッハ、クリングスポール博物館 11/9～23）

久保 幽香

デザイン部

部会長 坂本 三千一

年間展望

1989年、平成元年は通産省が提唱するデザイン年です。名古屋で開催されるデザイン博をはじめ全国各地でデザイン関係のイベントが繰り広げられます。

昨年は88徳島デザインイヤーとして県内のデザイン関係五団体（JAGDA 徳島・美協デザイン部・徳島ADG・徳島レタリングクラブ・ヴェルミデザイン研究会）が中心となり実行委員会を組織。我が部会も参画、活動を続けて来た。美協デザイン部主催の干支展「辰」に始まり「巳展」でフィナーレとなった。溝田治朗、福家治、天羽恵子、斎藤繁次の各氏の個展などの活発な活動はたのもしなものだった。JAGDA+徳島グラフィックデザイン展、CIセミナーは徳島のデザイン活動の歴史的イベントといってよい。これらの活動が徳島のデザイン環境の新しいムーブメントになってほしいものです。

◎JAGDA+徳島グラフィックデザイン展

87年版「年鑑日本のグラフィックデザイン」に登載された著名な作家91名92点を日本グラフィックデザイナー協会（略称・JAGDA）から借用、県内のデザイナーにも呼びかけ75名168点を同時に展示。展示方法もカテゴリー別に工夫をこらした。合計260点が郷文3階いっぱい展示され入場者も1077名にものほり香川や高知からも鑑賞に訪れた。

会期・1月6日（水）→12日（火）・郷文3F全室

<美協関係出品者>

坂本三千一、浅野昌哉、天羽恵子、井上稔、岩佐雅功、木邑智子、桑原美枝、斎藤繁次、坂野美恵子、田中一郎、田邨哲男、福井章、福家治、福家和代、溝田治朗、宮本光夫、山崎真起子、吉本実

◎CIセミナー

6月26日・厚生年金会館ホールに広島のJAGDA会員・縄田健次氏を講師に「CIって何？」をテーマに勉強会を開いた。

10月22日には大塚ヴェガホールで日本に初めてCIを導入し成功した東京の中西元男氏を招いて「これまでのCI・これからのCI」と題して講演。「地方でのCIについて」中西氏をアドバイザーに、徳島新聞広告局長の富永幹夫氏、我が部の宮本光夫氏の他各界の代表者をパネラーにシンポジウムを開いた。200席の会場は四国四県から多数の参加者で満員の盛況であった。中西氏の代表作は、40回県展審査員のトップデザイナー亀倉雄策氏のマークで有名な「NTT」や「ケンウッド」や「松屋」などがある。

◎第43回県展

今回の審査員はグラフィックデザイナーで東京で活躍されている佐藤晃一氏にお願いした。

出品総数—昨年99点、昨年 134 点、今回が90点であった。入選率60%で49点の入選。特選特別賞は高校生の浅野敦司君が受賞。我部から坂野美恵子氏が特選、準特選に齋藤繁次・溝田治朗氏が受賞、賞5点のうち3点まで会員が取ったことになる。会員6名が10点出品し6点が入選した。春の県展と親しまれた博美展が29回展で終わった。関係者に心から感謝したい。

<行事>

▶43回・県展デザイン部門（第二期）11月18日～23日・郷土文化会館

審査員＝佐藤 晃一（東京）

特別出品＝坂本三千一

招待＝浅野 昌哉

特選＝坂野美恵子

準特選＝齋藤 繁次・溝田 治朗

入選＝福家 治・天羽 恵子・吉本 実

▶29回、博美展デザイン部門（第二期）5月25日～29日 <最終回記念展> 博物館

審査員＝坂本三千一・浅野 昌哉・福井 章

博美大賞＝齋藤 繁次

優秀賞＝井上 稔

入選＝溝田 治朗

▶17回、徳島市文化展デザイン部門 3月18日～23日・郷土文化会館

選考委員＝坂本三千一・福井 章・宮本 光夫

招待＝浅野 昌哉・坂野美恵子・田中 一郎

無鑑査＝齋藤 繁次

出品＝溝田 治朗（徳島新聞社賞）・山崎真起子

▶徳島県秀作巡回美術展

出品＝齋藤 繁次・坂野美恵子・田中 一郎

▶移動県展

出品＝溝田 治朗・坂野美恵子・齋藤 繁次

▶藍美展・11月3～6日・藍住町みどりの広場

出品＝坂本三千一・齋藤 繁次

<88デザインイヤー参加>

・87年12月20日→88年1月10日

干支展「辰」美協デザイン部・NHKロビー

・1月6日→12日

JAGDA+徳島グラフィックデザイン展・郷文3F全室

・2月1日→29日

土人倶楽部展（斎藤繁次・井上稔他）・トマト

- 3月1日→31日

溝田治朗イラスト展・トマト

- 6月5日→18日

福家治イラスト展・トマト

- 7月3日→16日

天羽恵子イラスト展・トマト

- 8月1日→30日

斎藤繁次イラスト展・トマト

- 10月22日・大塚ヴェガホール

C I シンポジウム＝パネラー・宮本光夫他

- 12月21日→25日

オブジェ展・郷文3F・美協デザイン部

出品＝浅野 昌哉・天羽 恵子・岩佐 雅功・斎藤 繁次・坂野美恵子・坂本三千一・
田中 一郎・福井 章・福家 治・溝田 治朗・吉本 実

- 12月23日→89年1月4日

干支「巳展」・シビックセンター市民ギャラリー

出品＝浅野 昌哉・天羽 恵子・岩佐 雅功・斎藤 繁次・坂野美恵子・坂本三千一・
田中 一郎・田邨 哲男・福家 治・溝田 治朗・吉本 実

- タウン誌「あわわ」登載

3月号＝特別座談会〔デザイン満員電車〕

デザインイヤー実行委員長・坂本三千一他

11月号＝宮本 光夫、12月号＝坂本三千一、イラストレーション登載

- 12月12日→18日

レタリングクラブ展（岩佐雅功他）ブックシティ平惣2F

<会員消息>

- 坂本三千一
- 徳島市制 100 周年シンボルマーク審査員（徳島市）
 - 全国植樹祭ポスター審査員（徳島県）
 - 平和ポスター展出品（広島市・名古屋市・和歌山市他で展示）
 - J A P A N 展出品（東京他）
 - 日本設計名家展・89年1月21日～2月28日・台北市立美術館
 - ※ 中華民国美術設計協会の招待作家としてポスターを出品
- 坂野美恵子
- 九州イラストレーション展・特選受賞
 - 日本の自然を描く展（版画部門）優秀賞、上野美術館
- 田中 一郎
- 徳島市制 100 周年記念
藍のデザインコンクール入選

第43回徳島県美術展(県展)公募規定

部門 区分	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美術工芸	書	道	デ ザ イ ン	
搬入日	10月30日	10月22日	10月16日	10月23日	10月30日	10月15日		10月23日	
搬入先	徳島県郷土文化会館								
審査日	10月30日	10月23日	10月16日	10月23日	10月30日	10月16日		10月23日	
審査員	山岸 純	利根山 光人	三木 淳	橋本 省	山下 恒雄	大山 西	岡田 皓 佐野 伍象	崖 雲山 佐藤 晃一	
出品料	協会員 1点目 2,000円 その他の方 1点目 3,000円 ・2点目からはすべて 1,000円								
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・未公開作品に限る ・点数は制限なし ・小・中学校在学者は出品できない ・20号以上 100号まで、横幅2m以内、額・枠張り(ガラス不可) 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> ・組・単写真とも画面サイズ、半切以上(カラーは印刷に限る) ・無鑑査以上は画面サイズ半切以上、単写真に限る ・襖張り・額(組写真は1パネルに全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの) 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> ・高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m 重量200kg以内 ・材料は自由、展示可能なものに限る 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさ制限なし(ただし、平面作品はタテ2.2×ヨコ1.8m以内) ・木・竹・金工・陶磁・漆器・染色・織物・人形など 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> ・B1パネル 横728×縦1,030ミリ 厚さ25ミリ程度 ・課題は自由(実在の商品名・会社名等は除く)
入 賞	特別賞 1点 特 選 2点 準特選 3点 入 選 若干名	特別賞 1点 特 選 3点 準特選 5点 入 選 若干点	特別賞 1点 特 選 4点 準特選 8点 入 選 若干点	特別賞 1点 特 選 1点 準特選 2点 入 選 若干点	特別賞 1点 特 選 2点 準特選 3点 入 選 若干点	特別賞 1点 特 選 4点 準特選 13点 入 選 若干点		特別賞 1点 特 選 2点 準特選 3点 入 選 若干点	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。 ・展示作品は一期は11月16日(水)、二期は11月23日(水)の午後5時から午後6時までに搬出すること。 ・所定の期日までに搬出しなない場合は、主催者において処分する。 								

招待・無鑑査・特別出品者名 (*は都合により不出品)

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------|---|--|---------------------------------|--|--------------------------------------|--|--|---|--|--|
| ☆ 日
(特別出品)
高(招村長荻橋田中矢(無岡鑑査) | 本
(特別出品)
岡待)上尾野本淵川野査) | 画
何 有
凌弘行正靖 秋 英
太公比 隆亟文隆康 敏 弘 房征 真
正 清光英征 | 有 雪子夫弘夫健彦 彦
郎雄志 二典雄史孝等敬巖幸裕久 子二 仁 次雄之二 | 勝藤武笹櫛酒三上(無荒安森橋鑑査) | 西井内田淵井好野査)井長 木
彫(特別出品)東待)崎藤津口下田永
美(招新高森森七多松松(無橋鑑査) | 雅 敏 博和照 賢 賢圭 塑 文 良 文 俊邦 昌 猪佐雄慶 道 天双栢 | 夫梵亨雄魏司義文 治剛一祐 夫 行隆昭恵作宏勉 猛勇男浩郎子介一 恵 鶴鶴翠 | 西久新讚仲宮長高西成渡長原三芝前清美春岸中長勝川三近上日岡荒竹山(無佐富藤永田鑑査) | 岡保居岐 井原原 尾辺江田田原川水馬藤 谷谷瀬上間藤田下島井田口査)藤久若松中 | 楚幽藍泰三青阜清南荘草清霄栖醒古桂幾大潮史美景虹好静溪溪順彭和華 真鳴美春秀 昌 | 峰香州泉人雨鵬泉龍秀石幽月鶴鶴舟月賀歌風子峰流泉鷺苑水翠子仙代域 堂泉風苑翠 一 哉 |
| ☆ 洋
(特別出品)
*河長佐(招永清秦中川楠高立露服長(無吉岡鑑査) | 野井野待)山水 川原瀬橋岩口部尾 永本 | | | ☆ 彫
(特別出品)
*坂(招河佐大濱井鎌松鑑査) | | | | ☆ デザイン
(特別出品)
坂(招淺 | | | |

博美展博美賞受賞者一覽 (昭和41~63)

年度	回	日本画	洋画	写真	彫塑	美術工芸	書道	商業美術 (デザイン)
41	7	西岡 範子	高橋 敬	平山 成美	細川 直毅	森 浩	長原 阜鶴	
42	8	中川 健	長條 公子	吉田 紀夫	榊原 八重美	"	長江 清幽	
43	9	天羽 成芳	浜 正寛	中西 定雄	谷村 薫子	長條 公子	渡辺 草石	
44	10	片岡 良治	坂 東弘憲	川上 健司	小野寺 稜	大西 先	成尾 莊秀	
45	11	長谷 寿	"	原田 敏雄	松永 勉	松下 雄介	芝原 醒鶴	
46	12	真鍋 学	霜田 精奏	"	霜田 精奏	"	喜多村 成暎	
47	13	"	関 政明	隅地 通雄	玉田 修平	"	中口 操	
48	14	今川 一水	小梯 蔦子	矢口 保二	吉田 伯美	"	田中 美智子	糸井 由美子
49	15	大久保 雅生	岡久 薫	吉田 正勝	井藤 信正	"	中尾 勝子	永井 道子
50	16	釣島 冬樹	真野 孝彦	大西 健一	露口 幾也	"	久米 聰香	松波 美子
51	17	吉崎 進	矢本 次郎	小池 良洋	美濃 和子	多智花 佐代子	山本 寛水	森 敏香
52	18	大久保 雅生	四宮 久子	湯本 一生	榎本 宏子	香川 文孝	大松 静子	増田 伸寛
53	19	小松 久子	島川 清	東条 かつ子	中岡 陽子	"	佐野 天靖	浅野 昌哉
54	20	日浦 猛史	四宮 久子	森 貢	伊勢 洋子	松下 慶一	長江 頌石	永井 道子
"	"	西野 和男	岡田 守	東条 かつ子	(該当者なし)	多智花 佐代子	鈴木 郁子	竹森 陽一
55	21	中西 芳雄	宮本 陽子	林 敏彦	瀬部 瑞城	香川 文孝	武市 鳴雲	増田 和夫
56	22	佐々木 文子	藤川 明子	"	(該当者なし)	松下 慶一	佐原 和清	田村 千代子
57	23	金子 綾子	"	"	井上 史朗	日浦 久代	表原 輝実	寺本 礼子

年度	回	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美 術 工 芸	書 道	商 業 美 術 (デザイン)
58	24	中 川 正 志	藤 川 明 子	尾 崎 孝 幸	瀬 部 瑞 城	山 本 和 子	広 島 章 子	藤 本 孝 明
59	25	井 原 順 子	森 史 人	田 村 泰 弘	佐 藤 敬 子	原 田 史 郎	豊 田 乾 香	加 島 由 季
"	"	鶴 悦 子	林 伸 也	佐 治 孝	蒔 田 寿	松 下 慶 一	中 尾 勝 子	猪 井 秋 人
60	26	"	真 野 孝 彦	橋 本 圭 祐	"	矢 口 武 之	大 松 静 子	森 本 尋 子
61	27	金 子 綾 子	吉 永 房 子	前 浦 芳 久	渋 谷 吉 昭	阿 部 和 代	中 尾 勝 子	木 川 隆 志
62	28	原 郷 由 美 子	杉 本 英 治	菅 葎 数 久	吉 田 真 理 子	岡 部 育 子	玉 城 乾 香	"
63	29	岩 瀬 洋 子	桑 原 純 子	増 田 寿	柳 沢 悦 子	井 村 アイ 子	玉 城 乾 香	寺 本 礼 子
"	"	柳 田 一 子	原 田 チエ 子	荒 井 賢 治	三 木 健 二	冨 永 和 代	大 松 華 雪	斎 藤 繁 次

あ と が き

1989美術年報をおとどけいたします。

博美展も昭和35年度に博物館で初めて以来、29回も続き、春の県展として広く親まれてきましたが、今の博物館が、平成2年秋に開館する文化の森に移転するために、その資料収集等で手狭になり開催することができなくなりました。このため博美展は一応休止することになりました。

例年のとおり、各部長から各部に関する1年間の記録をご執筆いただきました。また、表紙は美術工芸部の森昌男氏からいただきました。

会員の方々が創作活動にますます励まれ本県の芸術文化振興のために尽くされますことを祈願いたしております。

このたびは平成元年度・2年度の役員を掲載するため発行がおくれましたことをお詫びいたします。

平成元年5月

県美術家協会事務局

平成元年5月25日 印刷

平成元年5月31日 発行

編集者 清水 博

装幀者 森 昌 男

発行人 砂 川 健 治

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳島県美術家協会